

皆さんが納めた税金や国・県からの支出金、地方交付税は、どのように使われたのでしょうか？昨年度の南国市の収入と支出についてお知らせします。

平成23年度の決算報告 南国市の家計簿

総括 5億4,856万6千円の黒字 借金である地方債借入残高は着実に減少

南国市の平成23年度普通会計の決算状況は、歳入が204億6,109万6千円、歳出が196億9,586万3千円で、歳入歳出差引額は7億6,523万3千円となりました。翌年度への繰り越し財源2億1,666万7千円を除くと、5億4,856万6千円の黒字となります。

また、歳入の根幹をなす市税総額は、6,227万5千円の増となったものの、地方交付税は7,841万2千円の減となり、地方交付税を穴埋めする臨時財政対策債も1億5,825万円の減額となりました。

地方債借入残高は、平成23年度末残高177億1,206

万4千円、対前年度比マイナス9億7,972万6千円、5.2%の減となり、市債発行の抑制と公的資金補償金免除繰り上げ償還の効果により着実に減少しています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は88.9%と、対前年度比で2.2%上昇し、財政の硬直した状態が依然として続いています。

今後も、公債費負担適正化計画などにより、健全な財政運営確立に向け行財政改革を進めていきます。

歳出

物件費と扶助費は増額、積立金および国の経済対策による投資的経費は減額

歳出総額は、196億9千586万3千円で前年度決算額に比べて11億996万4千円（5.3%）の減額となっています。

性質別歳出の状況は、義務的経費のうち、人件費は5千958万1千円（1.6%）の減となりましたが、これは退職手当の減がその要因となっています。扶助費は1億3千44万5千円（2.8%）の増となっており、子ども手当費や障害者自立支援事業費の増がその要因となっています。公債費は、定時償還額の減などにより1億2千535万2千円（4.5%）の減額となりました。

投資的経費は、地域情報通信基盤整備事業費や香長中学校校舎増改築事業費の減などにより10億7千450万5千円（30.2%）の減額となりました。

物件費では、共同利用型住民情報システム構築費、予防接種委託料や土地画整理事業費の増などにより4億1千888万4千円（20.4%）の増額となりました。積立金では、庁舎建設・整備基金積立金および減価基金積立金の減などにより5億1千442万7千円（65.7%）の減額、貸付金では、なんこく空の駅推進協議会運営資金貸付金の減などにより805万円（14.9%）の減額、繰入金では、下水道事業特別会計繰入金や後期高齢者医療広域連合繰出金の増などにより5千196万2千円（2.6%）の増額となっています。

歳入

市税と県支出金は増額、地方交付税および国の経済対策による国庫支出金は減額

歳入総額は、204億6千109万6千円で、前年度決算額に比べて10億9千140万2千円（5.1%）の減額となりました。

市税では、市民税2千964万4千円および市町村たばこ税4千539万2千円の増、固定資産税888万1千円の減となり、税込全体では対前年度比6千227万5千円（1.0%）の増額となりました。地方交付税は、対前年度比7千841万2千円（1.6%）の減、地方特例交付金は1千885万1千円（26.3%）の減となりました。

国庫支出金は、地域活性化・公共投資臨時交付金6億8千58万3千円、地域活性化・きめ細かな臨時交付金1億4千151万7千円、安全・安心な学校づくり交付金4億2千866万6千円、地域情報通信基盤整備推進交付金2億8千355万5千円の減などにより、全体では対前年度比11億3千893万7千円（23.9%）の減額となりました。県支出金は、木質バイオマスエネルギー利用促進事業費補助金1億2千99万2千円、介護保険施設等スプリングクラス等整備事業費補助金3千397万8千円、緊急雇用創出基金事業費補助金8千168万3千円、ふるさと雇用再生特別基金事業費補助金1千113万4千円の増などにより、対前年度比2億6千578万6千円（18.2%）の増額となりました。

地方債は、臨時財政対策債が1億5千825万円、香長中学校校舎増改築事業債5億2千万円、北陵中学校屋内運動場（武道場）増改築事業債1億2千110万円の減などにより、対前年度比5億7千345万円（29.8%）の減額となりました。

●普通会計とは？

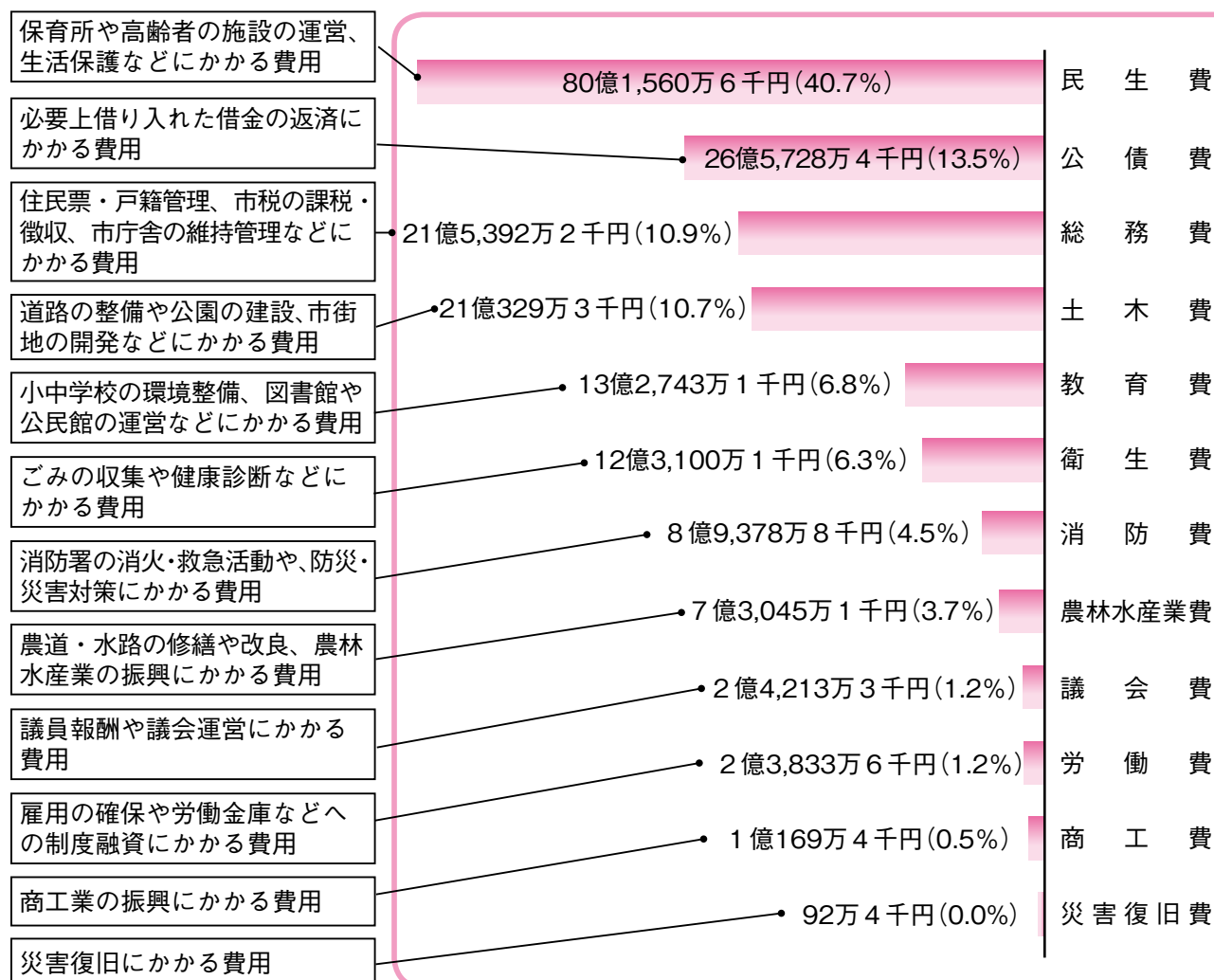
一般会計・住宅新築資金等貸付事業特別会計・土地取得事業特別会計の合計額から、繰り入れや繰り出しなど、会計間の重複額を控除した統計上の会計区分です。

●経常収支比率とは？

地方税などの経常一般財源収入のうち、人件費や公債費などの経常支出にどれだけ充当されたかを示すもの。市では75%程度が妥当とされ、値が低いほど、独自の政策にお金を支出することができます。

用語解説

目的別歳出の内訳 196億9,586万3千円



歳入の内訳 204億6,109万6千円

